

平成 27 年 度 学 校 評 価 実 施 報 告 書 (定 時 制)

県立神奈川総合産業高等学校

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
<p>単位制システムを活用した多様な生徒のニーズに応える教育課程の充実を図る。</p>	<p>○ 必要に応じた集中講座の設置等、学校設定教科・科目の精選</p> <p>○ 履修指導の充実</p>	<p>○ 「上級学校において役立つ学力」「社会の中で強く生きていくために必要な学力」「学び直しとしての学力」の定着を図る学校教育の成果</p>	<p>○ 単位制のシステムを最大限に活用できるように選択科目を整理し、柔軟な学びの場を提供した。</p> <p>○ 多様なニーズに対応した系列ごとの履修指導計画を確立したことにより、学習目標が明確になり学習意欲を高めることができた。</p> <p>○ 主体的に学ぶ生徒をはぐくむために、学習活動を吟味し、教える側から学ぶ側に視点を移し、学習活動研究会を実施した。「生徒の姿から学ぶ授業研究」を継続し、生徒の学習意欲の向上を図った。</p>	<p>○ 単位制総合学科として学習活動の充実を目指した授業研究を推進し、授業カスキルアップを図る。</p> <p>○ 多様な定時制生徒の状況に応じきめ細かく指導するため履修条件チェックシートを作成し、活用していく。</p> <p>○ 定通併修、全定課程間併修の充実を図る。</p>	<p>(保護者)</p> <p>○ 学習支援や生活支援において、個々の生徒に対応したきめ細かい丁寧な指導に感謝している。</p> <p>(学校評議員)</p> <p>○ 生徒による授業評価が全体的に向上しており、とくに授業の充実感や生徒主体の授業の工夫が高く、よりわかりやすい授業の実施に取り組んでいることが感じられる。</p> <p>○ 生徒のコミュニケーション能力を向上させるため、グループワークなど話し合いの機会を多くする取り組みは評価できる。</p>	<p>(学校評価)</p> <p>○ 多様な生徒のニーズに対応した系列ごとの履修指導計画を確立したことで、学習目標が明確になり学習意欲を高めることができたことは大きな成果である。</p> <p>(改善方策等)</p> <p>○ 継続的に学習活動研究会を実施し、「生徒に身につけさせたい学力」をさらに明確にし、教育課程の研究を推進する。</p>

<p>充実した明るい学校生活を支援すると共に規範意識と社会的言語能力をしっかりと身に付けた自立した社会人を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 日々の年次会と情報交換の徹底</li> <li>○ 相談体制とケース会議の充実・あいさつの励行および校内美化の推進</li> <li>○ モラルやマナー意識向上を目指した道徳教育の推進</li> <li>○ 特別活動の活性化と充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒の状況把握ができたか</li> <li>○ 支援の必要な生徒に対し早期対応ができたか・生徒の規範意識の変容</li> <li>○ 特別活動等の新たな取組の実施状況と成果</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 年次ケース会議の更なる活性化により、きめ細かな情報交換が行われ、組織的指導の強化がなされた。また教育相談コーディネーター・SSW・SCを中心とした支援体制をとる事ができた。</li> <li>○ 授業中の携帯電話等の指導については、非常勤も含め職員一丸となって取り組んだことにより、マナーやモラルが向上し指導に関する成果がみられた。</li> <li>○ 生徒の健康に関する取組については見直しを行い、指導の改善を図った。</li> <li>○ 生徒会活動の活性化と充実を図る行事を実施した。</li> <li>○ 新入生への部活動紹介や在校生への部活動の入部促進、全国大会壮行会など部活動を盛り立てる体制を整えた。</li> <li>○ 就職試験解禁の直前に、生徒の進路指導として面接指導を中心とした社会的言語能力を高める進路講演会を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒への組織的な支援の充実を図る。</li> <li>○ 特別な支援が必要な生徒へのよりきめ細かい支援を行い関係機関との連携を図る。</li> <li>○ 生徒のマナーやモラルの指導については、挨拶や会話、所作等日常的に指導する体制を検討し、実施したい。</li> <li>○ 生徒がより健康で安心して学び、生活できる環境づくりを推進する。</li> <li>○ 今後も一層、生徒が主体となる取組みを充実させ、充実した学生生活を送る環境を整えていきたい。</li> </ul>	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒が明るく活発な雰囲気になっている。学校生活においてきめ細かい指導をしていただき感謝している。今後も、学校と保護者が密接になる関係を大切にしていきたい。</li> </ul> <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒への指導がいきとどき、退学者数が減少し、落ち着いた学校生活を送れていることで、全体的に良い方向に向かっていると実感する。</li> <li>○ メンタル面で課題を抱える生徒が増えている中で、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携して、学校全体で相談体制を構築していることは評価できる。今後もさらにきめ細かい対応をするため、外部機関の活用を充実することが必要である。</li> </ul>	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ きめ細かい指導を行い、実績を残した部活動もあり、生徒会や部活動等生徒の主体的、創造的な活動への支援は十分な成果があった。</li> <li>○ 生徒指導に係る日常的な取組と生活指導方針の共通理解の深化に伴う組織的な指導は一定程度の成果があった。</li> </ul> <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 引き続き部活動の活性化については継続させる。また行事については全員参加を目指した魅力的な企画運営を推進する。</li> <li>○ より良い学習環境と生活環境を保障し、生徒が主体的に活動できる学校づくりを行う。</li> <li>○ 信頼関係を構築し、学校と家庭がよりよく連携協力できる体制を整える。</li> </ul>
<p>生徒一人ひとりが主体的に授業に参加する授業づくりを実践し、学習習慣の確立を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ わかりやすい授業の実践</li> <li>○ 生徒が主体的に参加する授業形態の工夫</li> <li>○ 授業規律の徹底</li> <li>○ 生徒による授業評価を活用した教科指導の工夫と改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒の授業への取り組み状況の変容</li> <li>○ 定期試験の結果</li> <li>○ 生徒による授業評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「学びの場」としての教育環境を整えることができた。</li> <li>○ 全職員で取り組む研究授業を2回実施した。その際指導主事を招致し指導助言をうけた。</li> <li>○ 外部講師によるアクティブラーニングの研修会、生徒の姿から学ぶ授業づくり学習会を実施した。</li> <li>○ 生徒による授業評価の集計結果から、授業改善の手立てによる成果がうかがわれる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 授業規律の徹底がよい効果を生み出している。授業を抜け出し徘徊する生徒や遅刻・早退者は、ほとんどいなくなった。引き続き組織的に取り組んでいきたい。</li> <li>○ 授業改善のテーマを「知的好奇心をくすぐる楽しい授業」と設定した。今後も研究を深化させていきたい。</li> <li>○ 主体的に学ぶ生徒をはぐくむために学校全体として授業スキルの向上を目指す。</li> </ul>	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 様々な授業改善の取組みの成果がでて、よりわかりやすい授業が行われていると感じる。生徒本人の家庭学習習慣への意識向上については、さらなる指導をお願いしたい。</li> </ul> <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全体的に生徒による授業評価が良くなっている。授業改善の取組みから基礎学力の定着や発展的な学習指導の成果だと思われる。</li> <li>○ 多様な体験活動や資格取得に取組むことが学習意欲の向上に繋がっている例がある。積極的に就労体験や資格取得に取組み、学ぶことの必要性を身に付けることも必要である。</li> </ul>	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 授業の正常化へ向けて、教職員が協力して授業規律の徹底に取組み「学びの場」として安心して落ち着いて学べる環境をつくることができた。</li> <li>○ 研究授業の後に、教科をこえて研究協議を行うことで、客観的な視点で授業改善に向けた意見交換を行うことができた。</li> </ul> <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 今後は「生徒に身につけたい学力」をさらに明確にし、さらなる生徒主体の授業改善に取り組む。</li> </ul>

<p>生徒一人ひとりのキャリアの発達を目指し、それぞれの進路実現を支援する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 総合学科の必修科目である「産業社会と人間」の充実</li> <li>○ いいなプロジェクト(就職活動サポート、シチズンシップ教育、道徳教育、交通安全サポート)の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒の職業感の変容</li> <li>○ 各サポートへのアンケート結果</li> <li>○ 希望する進路先への進路状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」において自己の進路について、調べ学習の形式で自主的に学ぶ時間を設けた。</li> <li>○ 上級学校出前授業を実施し、生徒個々のニーズに応える進路体験を行った。</li> <li>○ 「いいなプロジェクト」の活用ハローワーク等との連携により、「産業社会と人間」や「総合的な学習の時間」において、職業観を養うきめの細かい指導ができた。また、就職希望者を対象に、卒業年次団と連携し、生徒一人ひとりの目指す進路実現のため、履歴書指導・面接指導を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」の生徒一人ひとりの取り組みの意欲差が大きい。</li> <li>○ 上級学校出前授業を実施し、進路選択が早い時期からできるようになった。今後も継続していきたい。</li> <li>○ 「いいなプロジェクト」の活用就職支援としてハローワーク及び地域の企業との連携を図りたい。今後も卒業年次団と連携し、生徒へのきめ細かい指導を継続していきたい。</li> </ul>	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ キャリア教育の一環として、上級学校出前授業等で様々な職業を知る機会が設定されているので、生徒の進路実現の目標設定や職業選択の参考となっているようだ。</li> </ul> <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 体験活動や様々な職業を知る機会を設けて、早い時期からの職業選択の意識付けに取り組んでいることが感じられる。</li> <li>○ 多様な家庭環境や課題を抱える生徒がいる中で、若いうちから十分な心のケアが必要である。若者サポートステーションでの就職支援や心の相談等の活用も必要である。</li> </ul>	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 体験活動や探究活動の深化を目指し、学校外の講師等を活用して「自分探しの総合学科」として生徒が主体的に活動する授業等の実施回数を増やすことも検討したい。</li> </ul> <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ キャリア教育の根幹として、自立した社会人となるべく職業観の醸成とともに日常の学校生活の中で、「社会的言語能力」をしっかりと身に付ける取組を継続していきたい。</li> </ul>
<p>地域および学校間の連携を強化し、開かれた学校づくりを推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校、家庭、地域が連携した教育活動の展開及び開かれた学校づくりの推進</li> <li>○ 学校説明会、ホームページ等を活用した学校広報活動の推進</li> <li>○ 「交通事故ゼロ運動」をはじめとした交通安全教育等の取り組みの推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 取組状況や活動状況とその成果</li> <li>○ 地域や外部機関との連携、活動状況やその成果</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「いいなプロジェクト」の活用交通事故ゼロ運動では相模原南警察署・相模原南区役所・南交通安全協会等と連携し、学校周辺の交通マナーアップを目的に活動した。</li> <li>○ 地域貢献活動・防災訓練等において、地域自治会へ案内掲示をし、地域住民も参加して実施することができた。地域貢献活動では後援会(保護者)と連携して実施した。</li> <li>○ 文化祭に向けて地域の小学校や児童館を訪問し、緑日無料券を配布した。当日は多くの来場者で盛況であった。</li> <li>○ 連携事業の実施時期を固定することにより周知を図ることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域自治会への広報活動や情報交換を推進していきたい</li> <li>○ 地域貢献活動に生徒が意欲的に取り組んだ。(生徒参加率 73%)。今後、参加率が上がるよう充実をはかる。</li> </ul>	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文化祭などの行事において、学校、家庭、地域が連携することで生徒が充実した学校生活を過ごしている様子がうかがえる。</li> </ul> <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校に愛着をもつ生徒が増えて、今後も「母校がきれいで安心して学べる場所」と思ってもらえるよう、環境づくりを目指してほしい。</li> <li>○ 自転車事故やバイク事故が多い地域なので、交通ルールやマナーについての継続的な指導を行ってほしい。とくに夜間になると状況が大きく変わる。そういう中で地域との連携をしっかり取組み、今後も安全を意識した情報交換等交流が必要である</li> </ul>	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域連携を重視した交通安全教育と防災教育を推進し、夜間定時制の時間的な問題等の難しさがある中で、一定の体制が整備された。今後もさまざまな外部機関との連携を推進していきたい。</li> </ul> <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校行事の広報など、さらなる地域との情報交換や交流を促進する工夫を検討する必要がある。</li> </ul>

<p>安全・安心で信頼される学校づくりを推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 防災体制の整備と防災教育の徹底により、学校防災力の向上を図る</li> <li>○ 教職員の不祥事防止への自発的取組の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 防災教育学習会等の成果</li> <li>○ 夜間停電対策の充実状況</li> <li>○ 日々の声掛けやスローガンによる意識啓発の成果</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 緊急連絡手段として、「まちcomi」の導入を行い、生徒、保護者の登録を進めた。</li> <li>○ 防災訓練では、夜間停電を体験してから、年次ごとに緊急通報訓練、心配蘇生法実習、消火訓練を行った。</li> <li>○ 帰着訓練では、自宅近隣中学校のグループに別れ、避難所等の確認を行った。</li> <li>○ 不祥事防止対策として、職員の一言スピーチを行った。また、各グループによる不祥事防止研修会を職員会議後に行った。</li> <li>○ 職員会議・打合せ時に、啓発資料を利用し、管理職より指示伝達を行った。</li> <li>○ 防災訓練の各体験を通して、生徒の防災意識が高まった（生徒参加率 50%）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ まちcomiの登録者は、前年より80名多い278名（生徒・保護者・教員）が登録をした。（生徒登録率は全生徒の40%）今後もさらに登録率が上がるよう周知していく。</li> <li>○ 職員の一言スピーチによる不祥事防止の取組は、職員の意識啓発に成果があった。今後も職員間のコミュニケーションを活発化し、共通理解を深めていきたい。</li> <li>○ 防災訓練の内容について、生徒の効果的な学習となるよう改善していく。</li> </ul>	<p>（保護者）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「まちcomiメール」により、緊急連絡だけでなく各種行事等の学校の情報が直ぐに伝わってくるので、今後も継続してほしい。</li> </ul> <p>（学校評議員）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 課題を抱えた生徒が多い中で、定時制の学校生活の雰囲気が良い方向に向かっていると感じる。近隣からの苦情が少なくなり、落ちついた様子である。</li> <li>○ 地域に根ざした学校を目指し、防災訓練に地域住民も参加する機会があり、学校と地域が連携した対応ができてきたようだ。近隣住民には実際の災害時に、遠くまで逃げられない人もいますので、今後も防災での連携が必要である。</li> </ul>	<p>（学校評価）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ まちcomiの登録者が増加したことで、学校の的確な情報が保護者に伝わるようになった。</li> <li>○ 地元自治会等の地域との連携を図りながら、充実した内容の防災訓練を実施することができた。</li> <li>○ 職員会議後に不祥事防止研修会を実施したことで、全体の事故防止の意識が向上した。</li> </ul> <p>（改善方策等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域の避難場所としての運営に着眼し、「自助」訓練だけでなく「共助」訓練の内容を加えて防災教育を推進していく必要がある。</li> </ul>
-------------------------------	---	--	--	---	--	---